

海岸通りと横浜国民学校

保土ヶ谷区支部 島崎 利二(子)

戦没者 島崎 長之助

戦没地 グラム島

太平洋戦争が開戦の年、昭和十六年の四月に私は横浜国民学校に入学した時でした。生れ育った所は、中区海岸通り三丁目で、日本郵船、三菱倉庫、横浜税関などがあり、父は郵船会社の支店長付きの運転手でした。

父の出征は昭和十六年十一月十八日だったと思います。父は海軍でしたので横須賀へ入隊しました。私達兄弟もよく母につれられて、一緒に横須賀へ面会に行ったことなどをおぼえています。昭和十六年十二月八日は日本国が、米国・英国に対し太平洋戦争に突入したのです。初めの頃は戦況も良かった様でしたが、戦況も激しく成り、当時海岸通りには暁部隊の兵隊さんもおりまして、家の前の広い原っぱでよく訓練をしていました。東北の人が多かった様です。その部隊の兵隊さん達も南洋方面の戦地へと、出兵することに成り次々と横浜の港から輸送船に乗り出征して行きました。しかし、戦地へは上陸出来ずに米軍のために沈没してしまったようです。

戦況も益々激しくなり、都市に居る者も安全な田舎の方へと疎開することになったのです。私

達も昭和十九年の九月になると、いよいよ学校でも疎開の話が出る様になり、横浜国民学校の生徒も疎開する事に成りました。

私も四年生の疎開組として、国民学校に集まり吉浜橋より出発したのです。桜木町から小田原に着き、皆と一緒に湯本小学校の講堂に集まりました。湯本小学校のお母さん方が、私達に作って呉れた、カボチャのふかしたのをいただき、美味しかった事は今も忘れません。宿舎に成る福住旅館へと向かいました。旭橋の脇に有る古い立派な建物です。今は国の重要文化財に成って居るとの事です。その福住で私達四年生の生活が始まるのです。一階の部屋を使う様に成りその部屋は、二宮金次郎先生が村人を集めて講義をして居た部屋でした。四年生男子は午前中学習して、午後からは裏の湯坂山へ行き、木を山からおろして宿舎に運び薪にしていました。この仕事は男子生徒の役目でした。

当時の楽しみは母との面会日です。早川の川ぞいに玉だれの滝があつて、その前で母が持ってきた色々の食べ物を弟と三人で食べた思い出は忘れられないことです。

昭和二十年八月十五日に私達学童は皆、福住の玄関大広間に集まり、全校生が正座してガーガーと雑音のラジオを聴きました。終戦の詔勅です。初めはほとんど意味が判らず広間から部屋に戻つて、先生から日本国の敗戦を知らされたのです。学童のみんなはこれで横浜の家へ帰れるのだとよろこびました。

十月二十一日に福住で送別会があり横浜の学校へ帰ってきたのです。横浜小学校は米軍の宿舎に使われておりました。母校の横浜小学校には帰れず、本町小学校の校庭で学童疎開解散式を行

ったのです。これが同時に母校横浜小学校の解散式ともなりました。私の昭和十六年入学組は今も同期会を行っております。これからも皆元気で居てたびたび皆と集まり近況の話などしたいと思います。